令和７年度　都城市立高城中学校　学校評価シート

○各評価者へのアンケートは以下の４段階評価で実施する
４：十分達成されている（75～100%）　３：概ね達成されている（50～74%）　２：あまり達成されていない（25～49%）　１：まったく達成されていない（０～24%）

【学校の教育目標】「自立　貢献」～夢に向かって最善を尽くし、社会に貢献できる自立した人間であれ～

大項目	項目	方策・手立て	具体的数値目標（アンケートの4、3の合計割合）	職員	生徒	保護者	小項目	大項目	考察・分析（○成果、●課題）	学校運営協議会委員より	最終評価
全般	1 学校ホームページや学校だより、学年・学級通信などを通して学校の様子がきちんと伝わっている。	○細かなホームページの更新 ○月１回の学校だよりの発行 ○シグフィーでのお知らせ ○学級通信のカラー化 ○各学期の教育相談の充実 ○各月のいじめ・不登校対策委員会の実施	90%	4 100%	4 93%	4 95%	4 96%	4 93%	○ホームページの更新は担当職員の献身的な取組により細かに更新することができた。学級通信と各種通信を定期的に発行した。 ○教育相談では、アンケートをもとに生徒一人一人との対話を通して課題解決を図っている。情報共有を密にし職員が組織的に対応した上で保護者に連絡を行っている。 ●生徒の望ましい生活習慣について、生徒指導や特別支援教育の両面からのアプローチの在り方を構築していく必要がある。 ●項目３については、保護者との信頼関係を築いていけるよう、より誠実な対応を目指していく必要がある。	○全回答者の数値が共通して高いことからも満足度の高さが実感されていることが分かる。 ○朝夕の通学を見守っているが素直な子供達である。 ○いじめ不登校問題については学校と保護者間の信頼関係が大事であり、それによって生徒も安心して学校生活が送れいているのではないか。 ○いじめ不登校対策委員会において、昨今のいじめ動画(SNS)について当校での実態の調査、討議がしっかりとなされているのか。保護者との話合い、信頼関係が築かれているのか。 ○ニュースで報じられた事案は氷山の一角であるという意識で、いじめ問題に対応すべきである。	4
	2 生徒は、学校生活に満足している。		90%	4 100%	4 89%	4 92%	4 94%				
	3 生徒には、高城中学校に信頼できる先生がいる。		80%	4 100%	4 88%	4 84%	4 91%				
すぐれた知性	4 生徒は、主体的に学ぶことができた。	○一人一授業による授業方法工夫改善 ○ICT研修による効果的な活用 ○校内研究を通して、わ・さ・びの視点での授業づくり ○諸検査・テストの分析 ○図書館サポーターの活用	80%	3 56%	4 78%	3 72%	3 69%	3 72%	●昨年度と比較すると、評価が低い結果となった。 　これは校内研修において、「わ・さ・び」や「複線型授業」、「ICTの効果的な活用」について改めて見つめ直し、本当に生徒が主体的に学習に取り組めるような授業であったかを評価した結果であると考える。 ●今後も校内研修を深め、より生徒が主体となる授業の構築を目指していく必要がある。 ○そのような中でも、本年度取り組んだ「一人一授業」においては、全職員がICTを活用した、生徒が主体の授業に取り組み、互いに授業を参観することで、研究を深めることができた。 ○諸検査・テストの分析を行った授業改善についても全職員で取り組むことができた。	○学校内の授業内容は全ては分からないが、タブレット等、授業内容が大きく変化していた。 ○我々は授業参観でしか判断できないが、「わさび」や「複線型授業」、「ICT活用」等が生徒たちに浸透してきており、生徒が主体的に学習に取り組み効果が出ているように思う。 ○目標80%に対して全ての項目で達成されていない。「複線型授業」や「わさび」の授業で生徒が主体的となる取り組み方や校内研修においても議論がなされ、場合によっては基本から見つめ直すことが必要な時があると思います。 ○４の評価の中でも、３に近いものもあるかもしれないし、その逆も考えられるであろう。今回の評価を細かく分析して、今後の取組に生かしてほしい。 ○新たな方法論の活用疲れにならないようICT学力向上に寄与しているかという評価も必要かと感じる。	3
	5 生徒は、授業の内容が分かる。		80%	4 81%	4 81%	3 73%	4 78%				
	6 生徒は、協働的な学びを通して、自分の考えを深めたり広げたりできた。		80%	4 81%	4 83%	4 81%	4 82%				
	7 図書室平均貸出数20冊以上		80%	２３冊（11月末現在）							
	8 「わ・さ・び」の授業実践		80%	4 75%			4 75%				
	9 「複線型授業」の授業実践		80%	3 54%			3 54%				
豊かな心	10 生徒は、周りの人に対する思いやりがもてた。	○道徳の時間の充実 ○命の教育と情報モラル教育を年間複数回実施 ○SOSの出し方教育の実施 ○各学期の教育相談期間の設定 ○毎月の生活アンケートの実施 ○スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用 ○外部機関との連携	90%	4 88%	4 92%	4 92%	4 91%	4 93%	○職員、生徒、保護者ともに高水準の評価であった。情報モラルについては、講師を招聘しての学習に加え、生徒同士の話合い活動を取り入れた学習を行うなど、学習の質の向上を意識した取組の成果であると捉えている。 ○本年度、本校は県の「SOSの出し方に関する授業」推進指定校として、取り組んでおり、全校で共通の授業を実施し、その様子が「のびよみやざきっ子」で放映された。 ●いじめのない学校・学級づくりについては、生徒が安心・安全に過ごすことができる風土の醸成に努める必要がある。	○非常に高い数値から、温かい環境づくりが実現しているものと推察する。 ○いじめ問題や悩みがある生徒が先生や保護者に打ち明けられる体制を構築できるかが今後の課題である。 ○生徒同士の話合い活動等で自主性の向上や情報モラル教育が前向きに取り組まれていることは大いに評価できる。 ○面接指導の時に2名の生徒に高城中学校の魅力について質問したところ、みんなが優しくて仲が良いところだと答えていた。豊かな心を育む教育の成果の一つであると感じた。	4
	11 生徒は、自己肯定感を高め、命を大切にすることができた。		95%	4 100%	4 89%	4 99%	4 96%				
	12 先生や生徒は、いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる。		90%	4 100%	4 90%	4 83%	4 91%				
	13 生徒は、SNS等には十分なマナーを心がけている。		80%	4 84%	4 96%	4 97%	4 92%				
たくましい体	14 給食残滓なし	○保健体育授業での補強運動 ○生活ノートによる家庭生活の見直し ○保健だよりでの家庭への啓発	70%	4 100%	4 93%		4 97%	4 91%	○給食の残滓は非常に少ない状況である。生徒は諸活動に活発に取り組み、食欲も良好である。 ●運動に関しては、部活動(校外活動を含む)加入率もやや減少傾向にある。保健体育の授業や学校行事等を通して、運動による健康維持増進について理解を深めさせたい。	○中学生らしく食欲も旺盛で、健康的な体づくりもできていると思う。 ○グラウンドで見る子供たちは大変元気である。 ○勉強も大事であるが、部活動を通じて体づくりや仲間づくりも大切であることを保護者と生徒に理解させることが大事ではないか。 ○給食の試食会においては、子供に適量のカロリー計算がしっかりなされ、完食の状況が見受けられた。	4
	15 生徒は、運動や部活動・校外スポーツ等に積極的に取り組んでいる。		80%	4 94%	4 82%	4 83%	4 86%				
キャリア教育・ふるさと教育	16 生徒には、将来の夢や目標がある。	○キャリア教育の推進 ○総合的な学習の時間の充実 ○生徒会主体の地域貢献活動の実施 ○学校行事や教育活動への地域の方々の参画 ○まちづくり協議会、社会福祉協議会、自治公民館連絡協議会、学校運営協議会との連携	75%	3 69%	3 65%	3 70%	3 68%	4 76%	○学校運営協議会が地域とのつなぎ役を担ってくださるおかげで、生徒の豊な体験活動や地域貢献を実現することができた。 ○夏休みの地区公民館清掃、観音池まつり、福祉まつり、地区合同防災訓練等、地域ボランティアがあり、多くの生徒が参加し地域の方とふれ合いながら地域に貢献することができた。 ○１学年の戦争体験講話、２学年の福祉体験活動、３学年の敬老イベントなど、どの学年においても地域の方々との教育活動の充実が図られた。 ○本年度は、高城出身で海外で生活されている方にご講話いただき、国際教育・キャリア教育に関する貴重な学習を行うことができた。 ●地域の行事への参加については、１・２学年は部活動の大会と重なることが多いので、３年次に積極的に参加できるようにしたい。	○高城地区は、行事や地域芸能も多い印象があるが、今後とも地域との交流を維持してほしい。 ○公民館清掃や地域の収穫祭等の行事にボランティアとして参加し、地域住民とふれあいを通して地域に貢献している。 ○学校と公民館の関係がうまくいっている。公民館活動も積極的に行っていた。 ○地域に密着したボランティアが活発的に取り組まれ、生徒自身の自己肯定感が向上し、自主的に参加する生徒が増えつつある。地域での研修では主体的に取り組もうとする様子が見られ大いに評価できる。	4
	17 地域の方々と教育活動を行った。		80%	4 94%	4 86%	4 89%	4 90%				
	18 生徒は地域のボランティア活動に参加した。		80%	4 88%	4 74%	3 70%	4 77%				
	19 生徒は地域の行事に積極的に参加した。		70%	4 88%	4 63%	3 61%	3 71%				
働き方改革（職員のみ回答）	20 会議等が減少した	○会議の精選及び会議の短縮化・終了時刻の明確化 ○部活動支援者の配置 ○部活動休養日（リフレッシュデイ）の設定 ○C4th、google for educationを活用した、業務のデジタル化の推進 ○校務分掌組織の継続的改善 ○校内研究の推進	80%	4 100%			4 100%	4 90%	○リフレッシュデーはほぼ１００%実施できており、職員の疲労軽減につながっている。 ○会議の精選、校務のDX化(パソコン等で効率良く運用するシステム)が進んでおり、定着しつつある。 ●ICTの進歩が目覚ましく、業務のスリム化のために、より有効な手段を見極める必要がある。 ●昨年度に比べ、残業時間が増えているのは、本年度地区外から転入した職員や若手職員が多いため、システムの違いに戸惑ったり、授業準備や諸対応に時間が多くかかったことが要因であると考える。	○働き方改革については、保護者の理解と協力が不可欠である。若手職員が多いことは、新たなシステム導入と育成に多くの労力を必要とするが、取り組む場合何が最も有効であるか更なる議論と努力が必要であろう。 ○ペーパーワークの簡略化、ちょっとした気遣いなど、生徒へ振り向ける時間の確保のため、今後も取組を進めていただきたい。	4
	21 校務のDX化の推進		80%	4 81%			4 81%				
	22 組織マネジメントの効率化		80%	4 88%			4 88%				
	23 残業時間が減少した			R6　37：27 R7　39：45			4				
	24 リフレッシュデーの遵守		80%	リフレッシュデイ実施率は100%（代替含む）			4				

	全般	知	徳	体	ふるさと	働き方
宮田	4	4	4	4	4	
平山	4	3	4	4	3	4
上久保	4	4	4	4	4	
早川	4	4	4	4	4	4
兒玉	3	3	4	4	4	4
安藤						
新原						
平均	3.8	3.6	4	4	3.8	4